

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

平成30年 9月3日  
(前公表年月日:平成29年9月25日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																
専修学校 中部国際自動車大学 校	2/10/1964	齋木裕司	〒509-5117 岐阜県土岐市肥田浅野朝日町2-7 (電話) 0572-55-8511																
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																
学校法人土岐学園	2/10/1964	齋木寛治	〒509-5117 岐阜県土岐市肥田浅野朝日町2-7 (電話) 0572-55-8511																
分野	認定課程名	認定学科名	専門士 高度専門士																
工業	専門課程	自動車整備科 一級整備士コース	平成22年文部科学省 告示第38号																
学科の目的	実社会に適した自動車整備士としての専門の知識技能を授けると共に、企業とのミスマッチのないよう教養を高めて健全な国民の育成のため、学校教育法に基づき専修学校教育を行うことを目的とする。																		
認定年月日	3/31/2014																		
修業年限	昼夜	講義	演習																
4年	4485時間	1303時間	3062時間																
実習	実験	実技																	
3062時間																			
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数																
60人	6人	0人	8人																
			兼任教員数																
			0人																
			総教員数																
			8人																
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日	成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績評価規程による5段階及び、GP、GPA																
長期休み	■学年始:4月7日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月26日～1月7日 ■学年末:3月26日	卒業・進級 条件	学則 第9条、第10条 学則別紙1 卒業認定基準による。																
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 補習授業の実施、担任による面談、指導 等	課外活動	■課外活動の種類 ボランティア(土岐市総合福祉センター 車椅子整備)																
			■サークル活動: 無																
			■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)																
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一級小型自動車整備士</td> <td>②</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>二級ガソリン自動車整備士</td> <td>②</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>二級ジーゼル自動車整備士</td> <td>②</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> </tbody> </table>	資格・検定名	種	受験者数	合格者数	一級小型自動車整備士	②	0人	0人	二級ガソリン自動車整備士	②	0人	0人	二級ジーゼル自動車整備士	②	0人	0人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																
一級小型自動車整備士	②	0人	0人																
二級ガソリン自動車整備士	②	0人	0人																
二級ジーゼル自動車整備士	②	0人	0人																
			■自由記述欄 平成29年度卒業生なし																
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 自動車ディーラーなどの自動車業界 ■就職指導内容 会社見学、履歴書の書き方、面接指導 等 ■卒業生数 0 人 ■就職希望者数 0 人 ■就職者数 0 人 ■就職率 : 0 % ■卒業生に占める就職者の割合 : 0 % ■その他 : (平成 29 年度卒業生に関する 平成30年5月1日 時点の情報)	主な学修成果 (資格・検定等) ※3																	
中途退学 の現状	■中途退学者 1 名 平成29年4月1日時点において、在学者15名(平成29年4月入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者14名(平成30年3月卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 二級整備士試験不合格および経済的事情により中退 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任、教頭による面談、指導、保護者面談 等	■中退率 6.7 %																	
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有(無) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象																		
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有(無)																		
当該学科の ホームページ URL	http://www.a-tec.ac.jp																		

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容が公表されます。変更されています。初回認定の場合は、認定を待った後、告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください。

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。  
(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について  
①「就職率」とは、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者から除いたものをいいます。  
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について  
①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。  
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

国又は地域の産業振興の方向性を見極めながら、実務に必要な最新の知識・技術・技能を習得するために必要な情報の把握・分析を行なう。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会の意見(授業内容・方法の改善など)にあたっては、職員会議等で審議し、理事長及び学校長の許可を経てカリキュラムに取り入れ、実践的かつ専門的な職業教育の実施に努める。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
今枝 尚也	名古屋スバル自動車株式会社 総務部人事課 課長	平成29年4月1日～平成33年3月31日(4年)	③
近藤 厚文	土岐商工会議所 専務理事	同上	①
渡邊 隆	土岐市議会議員 元小学校長	同上	①
木田 勉	有限会社木田自動車 代表取締役社長	同上	③
小藤 隆好	専修学校中部国際自動車大学校 副校長	同上	
玉置 英世	専修学校中部国際自動車大学校 教頭	同上	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回以上 開催時期 3月、9月頃

(開催日時)

第1回 平成29年9月15日 13:30～15:00

第2回 平成30年3月17日 13:30～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

国土交通省でカリキュラムが決まっているので、どのように時間割を組むのか、国土交通省と自動車整備士の国家試験の関係上、どのようにするか折衝中である。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

自動車整備の実務に関する接客対応、実際の故障や不具合の確認、実際に使用されている経年変化を伴った車両整備や地域の特性をもとによる整備内容や技術、最新スキャンツールの実践技術を身につける。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

業界団体(自動車整備振興会)の整備士技能講習講師の指導を基に、実際の整備現場での業務内容を体験し、指導講師から業務内容について評価シートを作成していただき、学内での学習評価にその評価を加えたものにより、全体の実習評価を行っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
エンジン構造	HVの構造、機能、点検、整備要領、高度故障診断	岐阜トヨタ自動車株式会社
ジーゼルエンジン構造	コモンレールの構造、点検及び高度故障診断	岐阜トヨタ自動車株式会社 岐阜スズキ自動車株式会社 株式会社中垣自動車
シャシ構造	EAT、EPS、ABS、CVT構造、機能、点検及び高度故障診断	岐阜トヨタ自動車株式会社 岐阜スズキ自動車株式会社 株式会社中垣自動車
電装品構造	オートエアコン等の構造、機能及び高度故障診断	岐阜トヨタ自動車株式会社 岐阜スズキ自動車株式会社 株式会社中垣自動車
故障探求	自動車の制御等が電子制御が主流になったこと、制御するPCがCAN通信でつながっており故障箇所を見つけることが難しくなったため、総合的に故障箇所を探し出す学習	岐阜トヨタ自動車株式会社 岐阜スズキ自動車株式会社 株式会社中垣自動車

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員研修規定に基づき、研修委員会が研修プログラムを企画し、連携企業による職員研修を実施する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

平成29年 9月 5日 岐阜県自動車整備振興会主催 整備主任者法令研修  
平成29年 9月 19日 岐阜県自動車整備振興会主催 整備主任者技術研修

②指導力の修得・向上のための研修等

平成29年10月13日 東海マツダ販売(株)主催 技術セミナー  
平成29年11月12日 シナジー主催 スキャンツールの学内教員研修会

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

平成30年10月12日 岐阜県自動車整備振興会主催 整備主任者技術研修  
平成30年10月 岐阜県自動車整備振興会主催 整備主任者法令研修

②指導力の修得・向上のための研修等

平成30年8月7日～10日 全国自動車大学校整備専門学校協会主催 新技術・車両診断研修会  
平成30年8月7日～9日 マツダ(株)主催 マツダ スカイアクティブ技術セミナー  
平成30年8月27日～28日 UDTラックス(株)主催 最新技術研修会

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること

(1)学校関係者評価の基本方針

実践的かつ専門的な職業教育にかかる活動等を評価し、改善・支援等を行うことにより、学生等が、関係業界等のニーズを踏まえた質の高い職業教育を享受できるよう学校運営の改善と、専修学校教育の発展を目指した学校評価を行う。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	基準1 教育理念・目的・育人人材像等
(2)学校運営	基準2 学校運営
(3)教育活動	基準3 教育活動
(4)学修成果	基準4 教育成果
(5)学生支援	基準5 学生支援
(6)教育環境	基準6 教育環境
(7)学生の受入れ募集	基準7 学生の募集と受け入れ
(8)財務	基準8 財務
(9)法令等の遵守	基準9 法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	基準10 社会貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価結果に基づき、国家試験不合格者に対し補習・補講を実施した。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
森 真人	岐阜トヨタ自動車株式会社 採用教育部長	平成29年4月1日～平成33年3月31日(4年)	企業等委員
打田 秀逸	泉公民館 館長	同上	地域住民
安藤 浩市	元土岐市教育委員会 委員	同上	地方公共団体の関係者
山本 晃裕	税理士法人ファースト 公認会計士	同上	地域住民

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ

URL: <http://www.a-tec.ac.jp>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動や学校運営に関する情報提供を積極的に行い、関係者の理解を深める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要、沿革、特色、校訓及び教育方針、教育基本理念、教育目標、経営方針 等
(2)各学科等の教育	選考方法、定員数、教育課程、成績評価基準、取得資格、進路状況 等
(3)教職員	教職員数、組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、企業との実習等、就職支援の取組状況
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動等の取組状況
(6)学生の生活支援	学生支援への取組状況
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱、就学支援の内容
(8)学校の財務	貸借対照表及び資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	自己点検・自己評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ

URL: <http://www.a-tec.ac.jp>

## 授業科目等の概要

(専門課程 自動車整備科 一級整備士コース 1年次) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			HR・詩吟	整備士に必要な明るく元気に声を出せること。また礼儀、服装など、節度ある態度が身に付くことを目的として行います。	1 前後	25		○			○	○			
○			英語	自動車サービスマンは、「国際人」としても通用するように、基礎知識を身に付けることを主目的とします。	1 後	20		○			○	○			
○			教養	整備士に必要な一般常識やソーシャル中級の資格を取得するための知識を習得する。	1 前	20		○			○	○			
○			ガソリン・エンジン構造	ガソリン・エンジンの本体、潤滑、冷却、燃料、吸排気装置の構造や作動、名称などを習得し2級自動車整備士資格を目指す。	1 前後	40		○			○	○			
○			シャシ構造	自動車の動力伝達、走行、制動、緩衝、かじ取り、シャシ電装部品の構造や作動、名称などを習得し2級自動車整備士資格取得を目指す	1 前後	40		○			○	○			
○			電装品構造	自動車のエンジンに関わる電装品を中心に各装置の構造、作動、機能、保守、整備を学び自動車整備に必要な知識、技術を学びます。	1 前後	40		○			○	○			
○			ディーゼル・エンジン構造	ディーゼル・エンジンの燃焼・作動を理解し各装置の構造、名称などを習得し2級自動車整備士資格取得を目指す。	1 前後	29		○			○	○			
○			内燃機関	内燃機関の理論サイクルや各種燃料の性状と規格、潤滑剤、作動油等の特徴を習得し、近年の新製品、新規格なども修得する。	1 前	22		○			○	○			
○			自動車製図	自動車製図の基本を習得し、図面を作成する目的、更にもその図面に示す情報が利用できるようにする。	1 前	14		○			○	○			
合計					9科目		250単位時間( 単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率が全時間数の90%以上であること。試験規定に定められた試験に合格し、かつ 学科(講義)科目は6以上、実習科目は7以上の評価を全て受けていること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	25週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(専門課程 自動車整備科 一級整備士コース 1年次) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			自動車数学	国家試験によく出題される計算問題を解く上で、必要となる自動車工学の基礎的な、原理、法則、公式を習得します。	1 後	15		○			○		○		
○			自動車材料	2級自動車整備士資格取得を主目的としながらも、近年の新素材やリサイクルを容易にする材料やなども合わせて修得します。	1 前	15		○			○		○		
○			車体構造	自動車の構造・性能・諸元などを学ぶ。	1 後	8		○			○		○		
○			整備機器	整備用機器の名称と構造及び取扱い方法や保守管理などについて学びます。	1 前	23		○			○		○		
○			自動車法規	最新の関係法令等及び通達や、法令を理解し自動車整備業界に携われるようし、2級自動車整備士資格取得を主目的とします。	1 前	12		○			○		○		
○			ガソリン・エンジン整備	ガソリン・エンジンに関する点検、整備の方法、ならびに不良であった場合の修理・交換の要領（点検、分解、組付けを含む）	1 後	26		○			○		○		
○			シャシ整備	シャシ部品に関する点検、整備の方法、ならびに不良であった場合の修理・交換の要領（点検、分解、組付けを含む）	1 後	29		○			○		○		
○			電装品整備	自動車電装品に関する点検、整備の方法、ならびに不良であった場合の修理・交換の要領（点検、分解、組付けを含む）	1 後	26		○			○		○		
○			ジーゼル・エンジン整備	ジーゼル・エンジンに関する点検、整備の方法、ならびに不良であった場合の修理・交換の要領がガソリン・エンジンとの相違点を考察する	1 後	8		○			○		○		
合計					9科目		162単位時間( 単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率が全時間数の90%以上であること。試験規定に定められた試験に合格し、かつ 学科(講義)科目は6以上、実習科目は7以上の評価を全て受けていること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	25週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(専門課程 自動車整備科 一級整備士コース 1年次) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			工作作業	丸棒から六角ナットを製作する各工程に使用する工具や測定機器、卓上ボール盤、旋盤などの知識や使用方法及び注意事項の修得	1 前	23			○	○		○			
○			測定作業	一般測定機器の名称、構造、原理、取扱い、テストの作製、半田付けの技術及び半導体の知識テストを使用して点検方法修得	1 前	45			○	○		○			
○			基本実習 エンジンⅠ	実車からエンジンの脱着、6気筒ガソリンエンジンの分解・組付・点検および冷却、潤滑装置の構造、作動、6気筒のバルブタイミング・ダイヤグラム	1 前	56			○	○		○			
○			基本実習 シャシⅠ	ディファレンシャル、ペラ・シャフト、ユニバーサルジョイント、ステアリングの構造、分解、組付、点検及びホイールアライメント基礎知識、測定	1 前	57			○	○		○			
○			基本実習 電装Ⅰ	制動装置全般、ホイール・ハブ分解、組付、点検、調整及びタイヤ・ホイールの基礎知識と脱着及びホイール・バランス調整	1 前	57			○	○		○			
○			基本実習 エンジンⅡ	電子制御式燃料噴射装置の各種センサー、アクチュエータの種類、構造及び各種制御について修得	1 前 後	81			○	○		○			
○			基本実習 シャシⅡ	走行装置関係の構成部品（ホイール、タイヤ）の各種点検方法を理解して故障探求方法を修得	1 前 後	82			○	○		○			
○			基本実習 電装Ⅱ	点火、始動、充電装置の各構成部品及び回路、スタータ・モータ、オルタネータ、Iコイル、イグナイタ、スパークプラグの点検、測定の方法を修得	1 前 後	82			○	○		○			
○			検査 (フロントマン)	自動車検査作業の流れを検査機器を通して理解し、機器の取扱いや記録簿への記載方法を学び、検査の良否判断能力をつける。	1 後	31			○	○		○			
合計				9科目		514単位時間( 単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率が全時間数の90%以上であること。試験規定に定められた試験に合格し、かつ 学科(講義)科目は6以上、実習科目は7以上の評価を全て受けていること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	25週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(専門課程 自動車整備科 一級整備士コース 1年次) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			特殊機構 エンジン	ロータリ・エンジン、水平対抗エンジンなど分解組み立てを通して各部の構造及び機能について修得	2 後	51				○	○		○		
○			特殊機構 シャシ	ATの分解・組付けを通じて構造を修得、油圧制御および電子制御ATの各種点検方法を理解して故障探求方法を修得	2 後	51				○	○		○		
○			特殊機構 電装	サーキット・テスタおよび各種測定機器を使用し、電気回路を理解して電圧、電流、抵抗の測定技術を修得	2 後	51				○	○		○		
合計				3科目						153単位時間(			単位)		

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率が全時間数の90%以上であること。試験規定に定められた試験に合格し、かつ 学科(講義)科目は6以上、実習科目は7以上の評価を全て受けていること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	25週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



## 授業科目等の概要

(専門課程 自動車整備科 一級整備士コース 2年次) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			HR・詩吟	整備士に必要な明るく元気に声を出せること。また礼儀、服装など、節度ある態度が身に付くことを目的として行います。	2 前 後	25		○			○	○			
○			英語	自動車に関する専門用語を中心に整備士に必要な英会話を学ぶ。	2 前	10		○			○	○			
○			工業経営	ソーシャル検定中級を目指し企業人としての常識を習得します。	2 後	15		○			○	○			
○			教養	職場で働くリーダーとして必要な基本知識・教養を身につけ、職場のリーダーとしての仕事と役割を理解する。	2 前 後	19		○			○	○			
○			ガソリン・エンジン構造	ガソリン・エンジンの本体、潤滑、冷却、燃料、吸排気装置の構造や作動、名称などを習得し2級自動車整備士資格を目指す。	2 前 後	23		○			○	○			
○			シャシ構造	自動車の動力伝達、走行、制動、緩衝、かじ取り、シャシ電装部品の構造や作動、名称などを習得し2級自動車整備士資格取得を目指す	2 前 後	24		○			○	○			
○			電装品構造	自動車のエンジンに関わる電装品を中心に各装置の構造、作動、機能、保守、整備を学び自動車整備に必要な知識、技術を学びます。	2 前	24		○			○	○			
○			ジーゼル・エンジン構造	ジーゼル・エンジンの燃焼・作動を理解し各装置の構造、名称などを習得し2級自動車整備士資格取得を目指す。	2 前 後	26		○			○	○			
○			車体構造	自動車の構造・性能・諸元などを学ぶ。	2 前 後	8		○			○	○			
合計					9科目		174単位時間( 単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率が全時間数の90%以上であること。試験規定に定められた試験に合格し、かつ 学科(講義)科目は6以上、実習科目は7以上の評価を全て受けていること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	25週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(専門課程 自動車整備科 一級整備士コース 2年次) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			二輪車構造	二輪車の基本的な構造を学習し、点検、調整を行います。	2 前	13		○			○				
○			自動車と環境	2級自動車整備士資格取得を主目的としながら、自動車整備事業に必要な環境整備に関する知識を習得します。	2 前	7		○			○				
○			電子工学	2級自動車整備士資格取得を主目的としながら、電装品の高度整備技術に関する知識を習得します。	2 後	21		○			○				
○			工業数学	2級自動車整備士資格取得を主目的としながら、自動車における熱と力の関係に関する理論を習得します。	2 前	21		○			○				
○			ガソリン・エンジン整備	ガソリン・エンジンに関する点検、整備の方法、ならびに不良であった場合の修理・交換の要領（点検、分解、組付けを含む）	2 後	14		○			○				
○			シャシ整備	シャシ部品に関する点検、整備の方法、ならびに不良であった場合の修理・交換の要領（点検、分解、組付けを含む）	2 前	14		○			○				
○			ジーゼル・エンジン整備	ジーゼル・エンジンに関する点検、整備の方法、ならびに不良であった場合の修理・交換の要領がソリン・エンジンとの相違点を考察する	2 前 後	34		○			○				
○			電装品整備	エンジンに関わる電装品について、電気工学の基礎理論（電気・電子理論）と関連付けながら、各装置の構造、点検整備	2 後	14		○			○				
○			故障探求	自動車の故障の種類や原因、効率的な診断方法に対する考え方	2 前 後	36		○			○				
合計			9科目		174単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率が全時間数の90%以上であること。試験規定に定められた試験に合格し、かつ 学科(講義)科目は6以上、実習科目は7以上の評価を全て受けていること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	25週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(専門課程 自動車整備科 一級整備士コース 2年次) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			整備機器	整備用機器の名称と構造及び取扱い方法や保守管理などについて学びます。	2 前	12		○			○		○		
○			自動車検査	「道路運送車両法の保安基準」に定める保安上または公害防止上、その他の環境保全上の技術基準で、自動車の検査業務を行う際に基準判定が出来るようにします。	2 前後	23		○			○		○		
○			法令	最新の関係法令等及び通達や、法令を理解し自動車整備業界に携われるようし、2級自動車整備士資格取得を主目的とします。	2 前	12		○			○		○		
○			点検実習 エンジン	実車からエンジンの脱着6気筒ガソリンエンジンの分解・組付・点検・測定を行う。	2 後	51				○	○		○		
○			点検実習 シャシ	ドライブシャフト、ペーラ・シャフト、ユニバーサル・ジョイント、ステアリングの構造、分解、組付、点検及びホイール・アライメント点検・測定を行う。	2 前	50				○	○		○		
○			点検実習 電装	点火、始動、充電装置の各構成部品及び回路、スター・モータ、オルタネータ、IGコイル、イグナイタ、スパークプラグの点検、測定の方法を修得	2 前	51				○	○		○		
○			ジーゼル実習	ジーゼル・エンジン本体及びノズル、噴射ポンプ、グロー・プラグについて構造・作動とガソリン・エンジンとの違いなどを学習し、分解、点検、組付け・点検を行う。	2 前	115				○	○		○		
○			定期点検 各部点検	エンジン、シャシ、電装の総合的な実習を通じスキャンツールの取扱いなども習得する。	2 前後	212				○	○		○		○
○			検査作業	自動車検査作業の流れを、検査機器を通して理解し、機器の取扱いや、記録簿への記載方法を学び、検査の良否判断能力をつける。	2 後	56				○	○		○		
合計					9科目	582単位時間( 単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率が全時間数の90%以上であること。試験規定に定められた試験に合格し、かつ 学科(講義)科目及び実習科目は8以上の評価を全て受けていること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	25週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(専門課程 自動車整備科 一級整備士コース 2年次) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			故障探求	2級自動車整備士資格取得を主目的としながら、騒音・振動の高度整備技術に関する知識を習得します。	2 前	134			○			○		○	
合計				1科目										134単位時間( 単位)	

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率が全時間数の90%以上であること。試験規定に定められた試験に合格し、かつ 学科(講義)科目及び実習科目は8以上の評価を全て受けていること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	25週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(専門課程 自動車整備科 一級整備士コース 3年次) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			社会教養学	総合実習にて習得した内容をもとに、ユーザーへの情報提供として必要になる問診、診断、整備計画等と整備結果の内容説明などの応酬話法を習得させる。	3 前後	60		○			○	○			
○			自動車の構造・性能	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、自動車における機械の運動と作用、作動に関する知識を習得します	3 前後	30		○			○	○			
○			自動車の力学・数学	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、自動車におけるメカトロニクスに関する理論を習得します。	3 前	16		○			○	○			
○			電気・電子理論	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、自動車における各種センサの働きに関する理論を習得します。	3 前	30		○			○	○			
○			材料	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、自動車における各種材料の特性とリサイクルに関する理論を習得します。	3 前	14		○			○	○			
○			燃料・潤滑油	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、自動車における燃料と潤滑に関する基礎理論を習得します。	3 前	14		○			○	○			
○			図面	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、自動車における機械の運動と作用、作動に関する知識を習得します。	3 後	16		○			○	○			
○			エンジン整備	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、エンジンの高度整備技術に関する知識を習得します。	3 前後	50		○			○	○			
○			シャシ整備	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、シャシの高度整備技術に関する知識を習得します。	3 前後	50		○			○	○			
合計					9科目		280単位時間( 単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率が全時間数の90%以上であること。試験規定に定められた試験に合格し、かつ 学科(講義)科目及び実習科目は8以上の評価を全て受けていること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	25週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(専門課程 自動車整備科 一級整備士コース 3年次) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			電装整備	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、電装品の高度整備技術に関する知識を習得します。	3 前後	50		○			○		○		
○			故障原因探求	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、故障原因の高度整備技術に関する知識を習得します。	3 後	30		○			○		○		
○			総合診断	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、自動車整備に関する総合診断に関する知識を習得します。	3 後	34		○			○		○		
○			環境保全	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、自動車整備事業に必要な環境整備に関する知識を習得します。	3 前	20		○			○		○		
○			安全管理	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、自動車整備事業に係わる安全管理に関する知識を習得します	3 後	6		○			○		○		
○			整備作業機器	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、整備に使用する整備機器の構造、特性を理解し取扱方法や作業手順を習得します	3 前	8		○			○		○		
○			測定機器	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、整備に使用する測定機器の構造、特性を理解し取扱方法や作業手順を習得します	3 前	8		○			○		○		
○			検査機器	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、自動車の検査に対する幅広い知識を習得します。	3 前	10		○			○		○		
○			自動車検査	「道路運送車両法の保安基準」に定める保安上または公害防止上、その他の環境保全上の技術基準で、自動車の検査業務を行う際に基準判定が出来るようにします。	3 後	16		○			○		○		
合計			9科目		182単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率が全時間数の90%以上であること。試験規定に定められた試験に合格し、かつ 学科(講義)科目及び実習科目は8以上の評価を全て受けていること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	25週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(専門課程 自動車整備科 一級整備士コース 3年次) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			自動車整備に関する法規	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、自動車を取り巻く幅広い法規の知識を習得します。	3 前	18		○			○		○		
○			工作作業 機械工作	機械工具の安全な取扱いと正確な計測作業及び、作業の出来栄え及び管理状況、作業態度、整理整頓を修得する。	3 前後	16				○	○		○		
○			測定作業 電子計測	測定工具の安全な取扱いと正確な計測作業及び、作業の出来栄え及び管理状況、作業態度、整理整頓を修得する。	3 前後	16				○	○		○		
○			GEコンプリー ト	エンジン電子制御装置の電気回路、電子回路、オシロスコープにて信号波形を出力や外部診断器を使用した整備技術を修得する。	3 前	77				○	○		○		
			DEコンプリー ト												
○			エンジン制御	筒内噴射式ガソリン・エンジン及びHV車、並びにコン・レール・システムの構成、特性を理解し整備時の注意点、点検方法を修得させる。	3 前	87				○	○		○		
○			カスタマイジ ング	電子制御式ATの高度故障診断技術及びオートAC、ABSの構成、特性を理解し整備時の注意点、点検方法を修得させる。	3 前	116				○	○		○		
○			シャシダイナ モ	CVT、EPSの構成、特性を理解し整備時の注意点、点検方法及び自己診断機能及び外部診断機を使用しての整備技術を修得させる	3 前	15				○	○		○		
○			電子制御AT	電子制御式ATの高度故障診断技術及びオートAC、ABSの構成、特性を理解し整備時の注意点、点検方法を修得させる。	3 前	15				○	○		○		
合計					8科目		360単位時間( 単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率が全時間数の90%以上であること。試験規定に定められた試験に合格し、かつ 学科(講義)科目及び実習科目は8以上の評価を全て受けていること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	25週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

### 授業科目等の概要

(専門課程 自動車整備科 一級整備士コース 3年次) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			電子制御VSC	VSCの構成、特性を理解し整備時の注意点、点検方法及び自己診断機能及び外部診断機を使用しての整備技術を修得させる	3 前	18			○	○		○			
○			電装整備作業	不具合現象を客観的に捉える能力や、基本点検を怠らず自己診断機能、外部診断機に頼りすぎない故障診断能力を修得させる。	3 前後	122			○	○		○			
○			オートエアコン	オート・エアコンの構成、特性を理解し整備時の注意点、点検方法及び自己診断機能及び外部診断機を使用しての整備技術を修得させる	3 後	42			○	○		○			
○			故障原因探求	総合実習にて習得した内容をもとに、ユーザーへの情報提供として必要になる問診、診断、整備計画等と整備結果の内容説明などの応酬話を習得させる。	3 後	164			○	○		○		○	
○			自動車検査作業	自動車検査作業の流れを、検査機器を通して理解し、機器の取扱いや、記録簿への記載方法を学び、検査の良否判断能力をつける。	3 後	32			○	○		○			
合計					5科目	378単位時間( 単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率が全時間数の90%以上であること。試験規定に定められた試験に合格し、かつ 学科(講義)科目及び実習科目は8以上の評価を全て受けていること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	25週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



## 授業科目等の概要

(専門課程 自動車整備科 一級整備士コース 4年次) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			マーケティング	1級自動車整備士資格取得を主目的としながら、自動車整備事業を取巻く幅広い一般教養を習得します。	4前	18		○			○				
○			経営学	多様化する自動車ユーザーの保守管理を支援するための情報提供手段、顧客管理、データベースの作成等の幅広い知識を学習します。	4前	18		○			○				
○			英会話	自動車に関する専門用語を中心に整備士に必要な英会話を学ぶ。	4前後	50		○			○				
○			コンピュータ	自動車に使用されている電子部品の種類、構造、機能及び故障探求に使用するテスタの使用方法。また自動車の電子制御の基礎から応用	4前後	50		○			○				
○			体験実習	学校で学んだ技術を企業において実践。職場を体験させ職業人としての心構えと意識を持たせ、自分に必要な学習項目を具体的に自覚、認識させる。	4前後	226					○	○	○		○
○			評価実習	振動・騒音のメカニズム、低減方法を理解し故障診断技術、故障診断方法、整備技術を修得させる。定期点検整備、総合診断技術及びフロント実務の修得	4前後	780					○	○	○		
合計					6科目	1142単位時間( 単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率が全時間数の90%以上であること。試験規定に定められた試験に合格し、かつ 学科(講義)科目及び実習科目は8以上の評価を全て受けていること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	25週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。